

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭57—151837

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
H 01 H 35/00

識別記号

庁内整理番号  
6708—5G

⑬ 公開 昭和57年(1982)9月24日

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ 反射型光電スイッチ

京都市右京区花園土堂町10番地  
立石電機株式会社内

⑯ 実 願 昭56—38523

⑰ 出 願 人 立石電機株式会社

⑱ 出 願 昭56(1981)3月18日

京都市右京区花園土堂町10番地

⑲ 考 案 者 福山俊文

⑳ 代 理 人 弁理士 縣浩介

㉑ 実用新案登録請求の範囲

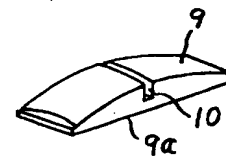
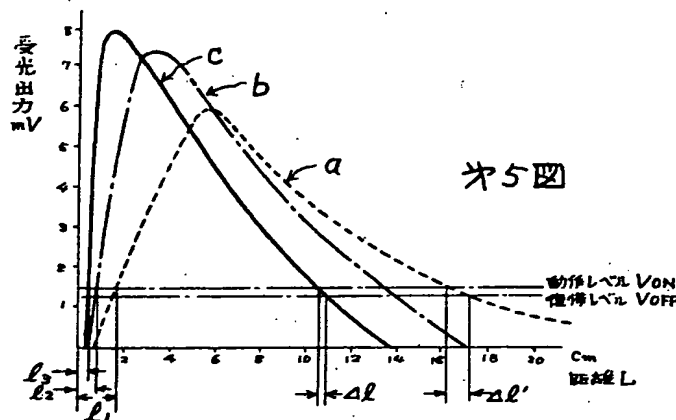
- (1) 投光素子と受光素子との間に光遮蔽仕切板を介在させて両素子を軸心平行に同一基板に並設し、投光素子から被検出物へ入射して反射した光線を受光素子で検出するようにした反射型光電スイッチにおいて、光遮蔽仕切板両側の投光窓口と受光窓口とに共通に、入射光線を内側に曲げる光学素子を設置した反射型光電スイッチ。
- (2) 入射光源を内側へ曲げる光学素子として中央部が厚く一面平面の透明体を用い、その凸部を内側にして投光・受光窓口に嵌着するようにした実用新案登録請求の範囲第1項記載の反射型光電スイッチ。
- (3) 中央部が厚く片面が平面の透明体の凸部の頂

上に直線溝を設け、この直線溝に光遮蔽仕切板の外端を嵌入させた実用新案登録請求の範囲第2項記載の反射型光電スイッチ。

図面の簡単な説明

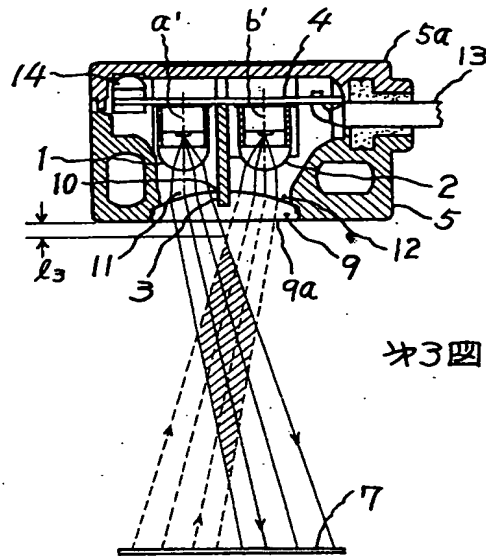
第1図と第2図はそれぞれ別の従来例の縦断正面図、第3図は本考案の一実施例の縦断正面図、第4図は第3図の要部の斜視図、第5図は以上全例の特性グラフ図である。

図中、1…投光素子、2…受光素子、3…光遮蔽仕切板、4…プリント基板、5…箱型の本体、6…平板の透明窓板、7…被検出物、8…斜面台座、9…凸レンズ(凸レンズ相当光学素子)、10…直線溝、11…投光窓口、12…受光窓口。

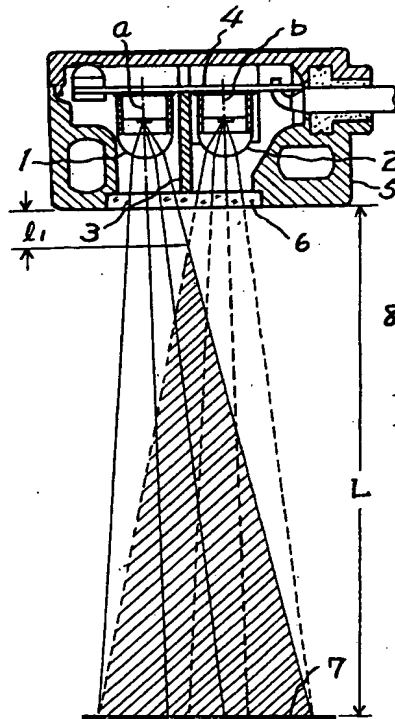


※4図

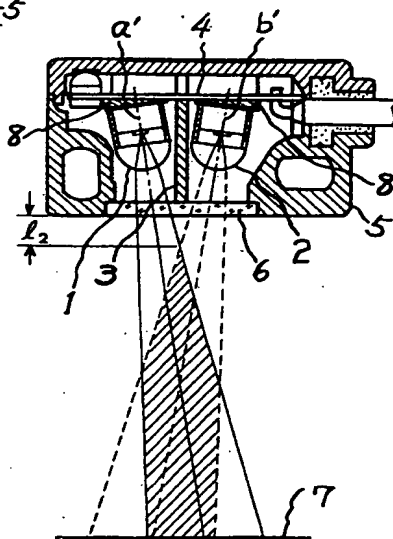
実開 昭57-151837(2)



\*3図



\*1図



\*2図